

< ターム共通資料 要約学習法 >

人文・社会科学では10,000文字を超える日本語論文が登場し、また、総合教養で2,000文字程度の複数の日本語論文を短時間で読みこなすことが要求されている。特に文系のICU入試受験生にとっては日本語論文の読解は最重要の対策ポイントである。日本語の論文を短時間で読み取り、正確に内容を把握していく上での効果的な学習方法として、要約の作成を推奨している。具体的には、一度問題を解いた後に、本文の要約を作るというものである。

1.要約を作るメリット

本文の要約作成には以下のようなメリットがあげられる。

- a.重要ポイントをすばやく抜き出す技術が身につく。
- b.問題を解きっぱなし、という状態を防ぐ。復習の重要な機会となる。
- c.たくさん要約をこなすうちに論文のパターンというものが見えてくる。
- d.なんだかもすごく勉強したような気になる。次の問題を解くモチベーションとなる。
- e.文章を読むことに自信がつく。自身をもって解答できるようになる。
- f.自分の理解していない部分は要約することができない、つまり自分がどこがわかっていないかということがはっきりする。
- g.論文の構造を書いて理解することで、次の展開される論文のパターンが予測できるようになり、速読力が付く。

2.要約の作り方

- a.要約を作る前にまず問題を解く。全部答えあわせをする。わからない用語などは辞書で調べる。
- b.要約は章ごと、段落ごとに行う。各段落をなるべく短く要約するよう意識する。いらないと判断した段落は飛ばしても良い。
- c.なるべく自分の言葉を使って書く。
- d.筆者の主張と、それをサポートする例の部分を区別する。
- e.各章の役割、および章のつながりを意識する。
- f.必ず章の結論はなんであるのか、論文全体として何が言いたいかということを書く。

3 要約の実際

ここでは 88 年度人文を要約してみる。

オデュッセイアにおける自然と人間

1.

古代ギリシア人の人間観、自然観というものはどのようなものであったか、ホメロスの叙情詩『オデュッセイア』のなかにそれを見いだしていきたい。

2.

オデュッセイアは 3 部において構成されている。

1 部 - オリュンポス会議および、テレマコス（オデュッセウスの息子）の物語

2 部 - コトパゴイ（蓮食人の国） キュブクロス（巨人ポリュフェモスとの戦い） カリュプソ島幽閉 フェイエケス（ナウシカとの出会い） イタケ島

3 部 - テレマコスとの対面、ペロネペイア（妻）との再会。復讐。

論文では特に 2 部について扱い、特にキュブクロス（巨人ポリュフェモス戦い）と、フェイエケス（ナウシカとの出会い）について取り扱う。

3.

キュブクロスは農耕つまり文化を持たない民である。海外との交流がなく、ネガティブとしての野生が現れている。法律や海外との公益を持つギリシアとは対極にある存在である。さらに、彼らはフィオクセニア（客人の歓迎）、つまりゼウスの掟を守らない。

キュブクロスにおける一つ目巨人ポリュフェモスの蛮行と、それに対するオデュッセウスの逆襲には、暴力と欺瞞が内包されており、文化の両面性が端的に表れている。

4.

フェイエケスはメルヘンと現実、神の生と人間の世の橋渡しの役割を果たしている。フェイエケスにおいてオデュッセウスはナウシカに出会うが、それはフィロクセニアの掟を守ったものであり、客人として歓迎される。

5.

物語には 3 人の重要なギリシアの神が登場する。

アポロン=「汝自らを知れ」死すべき人間の存在、人間の限界とそこにおける自由=ギリシア的ヒューマニズムの代弁。音楽の神。

アルテミス=穢れなさ、乙女の純潔と自由、アポロンの双子

アテネ=身近な神（遠く存在であるアポロン）、軍神、国家の守護神、技術、知性、実際的な神。

6

オデュッセウスはフェイエケスの王、アルキノオス王からも歓待を受ける。もの語りにおいてフェイエケスは神に近い「桃源郷」の世界として描かれている。しかしながら野蛮な民であるキュプクロスも、同じく神に近い存在であり、自然は多用な形でその姿を現す。神的なものの多様性を表している。

7.

フェイエケスにおいても、あるいは幽閉されていたカリュプソにおいても、オデュッセウスは安楽な世界への誘いを断り、苦悩に満ちた人間的世界への帰還を希望する。そこにはギリシア的なヒューマニズムの原型である「汝自らを知れ」という精神があり、「死すべき人間」への自覚が見られる。獣性と神性という両極端を持つ自然から、人間である、という状態を保つことこそ、人間の根元的な営みであり文化なのである。その後オデュッセウスは故郷イタケ島への帰還を果たし、父ラエルテスと再会する。痩せこけた土地を額に汗して働くラエルテスの姿こそ、ギリシア的な人間理解を端的に表現したものであると言えよう。

88 年度人文を解いた方はおわかりかと思うが、実際に読んでみると専門用語が多かったり、物語が前後したりして一見理解が難しいように思われる。しかし要約をしてみると、論文の多くがあらすじであり、そこから筆者の考えを抽出していくと、論文の論旨がはっきりと現れる。

4.まとめ

というわけで要約のメリットと作り方について書いてみた。

面倒ではあるが、簡単にできるし、せっくなので解いた問題はぜひ要約を作っていたきたい。文章の理解度がぐっと違ってくることを請け合いである。最初は 1 時間かかるかもしれないが、慣れると 20 分で作れる。ぜひこれを機会に、論文を読みっぱなしにせず、論

要約学習法

文全体を理解する習慣をつけて頂きたい。

< 追記 1 >

要約学習は毎回できれば理想だが、実際にはかなり時間がかかるので、特に苦手な受講生ほど負担になる傾向が見受けられる（別の言い方をすれば論文系統の試験が得意な生徒は積極的に要約をするので、だんだんと短時間で要約がこなせるようになり、ますます得意になる）。よって無理にまでやる必要はない。特に ICU 対策に時間が割けない場合は、要約を作るよりは、問題演習を優先した方がよい。まずは一度要約を作る作業をしてみて、どれくらいの労力を要するかを計り、自分なりに「何回に 1 回かは要約を作る」というペースを決め、取り組んでいただきたい。なお解答・解説に書かれている本文要約は、復習する際に素早く読めるよう、時間をかけて作ったものなので、自作する要約はもっと簡潔なものでよい。